

令和 6 年 7 月 1 日

令和 5 年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
総社市立池田小学校（外 1 校）	総社市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
総社市立池田小学校	http://www.iked-es.soja.ed.jp/info.html
総社市立新本小学校	http://www.sinpon-es.soja.ed.jp/info.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
総社市立 池田小学校	http://www.iked-es.soja.ed.jp/info.html	http://www.iked-es.soja.ed.jp/info.html
総社市立 新本小学校	http://www.sinpon-es.soja.ed.jp/info.html	http://www.sinpon-es.soja.ed.jp/info.html

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒

・計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒

・実施している

・実施していない

<特記事項>

英語に重点的に取り組む学校として市が英語特区に指定し、学校の取組を広く広報すると共に積極的に英語の授業を公開している。参観日やオープンスクールで英語の授業を実施したり、校内で英語のイベントを開催し、保護者や地域住民を招いたりするなど、特例校としての取組や成果の様子を伝えている。また、ホームページや学校便りでも活動の様子を積極的に発信している。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

豊かな人間性をもち、実践力のある子どもを育成すること、また、人間尊重を基盤として様々な教育活動に進んで取り組む子どもを育成することを重視する両校にとって、英語を学校教育における柱の一つに据えている。英語学習を通して、多様性を認めながらコミュニケーション力及び表現力の向上を図る教育活動は、学校教育目標に迫る上で大きな役割を担っている。

外部講師を招いての研究授業を行い、積極的に市内の教員に授業公開し研究協議を行うことで教員の授業力向上の充実を図っている。また、学習したことが授業以外での活動（英語朝礼や英語放送、全校での英語イベント）や日常でのALTとの交流などに生かされている。「英語の勉強は楽しい」「英語で話したり、読んだりすることが好きだ」という質問に約8割の児童が肯定的な回答しており、本特例により英語への興味・関心を一層高め、活動等で培われた力が着実に児童の成長につながっている。

一方で、英語学習に難しさを感じたり、英語で自分のことについて表現することに苦手意識をもったりする児童も一定数いるため、興味・関心をもって前向きに活動に取り組むための工夫が必要である。加えて、少人数の学校であるため、授業の中でコミュニケーション活動の相手が限られたり、英語を使う必然性をもたせることが難しかったりする課題がある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

両校における特別な教育課程編成は、子どもたちが未来を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す新学習指導要領の趣旨に沿って実施するものである。英語の授業で慣れ親しんだ語彙や表現を活用して、自分の好きなものを紹介したり、ALTとの交流を楽しんだりするなど、相手の立場や状況を考えながら、意欲的に自分のことを表現する児童が多く見られる。未来を切り拓くための資質・能力の育成に向けて、国際的視野を身につけるためにも自分たちのことを伝えるという意識と共に、相手のことも知りたいという意識の醸成をバランス良く育んでいく必要がある。

4. 課題の改善のための取組の方向性

さまざまな人との関わりの中で主体的に言語活動に取り組むことができるような学習活動を工夫することが必要である。例えば ICT 等を活用して遠方の人とつながったり、手紙のやり取りをしたりするなど、学校以外の様々な人と英語を使ったコミュニケーションがとれる場を設定し、英語を使う必然性をもたせる工夫が必要である。また、幼小の連携を生かし、学びや体験をその学年だけで終わらせることなく、学習したことを次学年への学習へつないでいき、4 技能 5 領域をバランスよく習得することを目指した取組を継続したい。